涅槃会（ねはんえ）

■楽曲データ

歌詞：長田恒雄　作詞

楽曲：下総皖一　作曲

発表：－

初演：－

初出：『仏教讃歌集　幼児篇』　フレーベル館　1956年

管理番号：M0634

■創作の経緯

創作の経緯等は不明。

■校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集　こども編』第１巻収録

底資料：『仏教讃歌集　幼児篇』　フレーベル館　1956年

比較資料１：『佛教讃歌２』真宗大谷派　1966年

比較資料２：『仏教讃歌　こどものうた』　本願寺出版協会　1973年

比較資料３：『仏教保育聖歌集　100曲集』　すずき出版　1974年

比較資料４：『幼児向け仏教讃歌　ほとけのこどものうた』　本願寺出版社　1996年

校訂の詳細：特になし

■解説

◆作品について

２月15日は、お釈迦さまがお亡くなりになった日。この日にあわせて勤められるのが、涅槃会という法要です。

みんなみんな　ないてます――仏教讃歌《涅槃会》は、このように歌い出されます。お釈迦さまが亡くなられたとき、その周囲には数多くのお弟子やお釈迦さまを慕う人びと、動物までもが集まり、お別れを悲しんだそうです。その様子は古くから、「仏涅槃図」と呼ばれる仏画に描かれてきました。《涅槃会》１番で歌われるのも、この光景なのです。

お釈迦さまは35歳で悟りをひらかれ、80歳で亡くなられるまで、来る日も来る日も教えを説かれました。そして、亡くなられる前には、教え（法）をよりど

ころとして生きるよう、お諭しになったそうです（自灯明・法灯明）。それから二千年以上の時を経た今日まで、お釈迦さまが説かれた教えは、多くの人びとによって護り伝えられてきました。親鸞さまも、「阿弥陀さまのみ教えを説いてくださった方」として、お釈迦さまを讃えておられます。そのことに思いをいたしながら、歌ってみてください。

◆作詞者・作曲者について

作詞の長田恒雄（1902～1977）は、真宗大谷派の寺院に生まれました。９歳で得度したものの、詩人として仏教と向き合う道を選び、たくさんの仏教詩を遺しました。

作曲は、下総皖一（1898～1962）。東京音楽学校（現・東京芸術大学音楽学部）を首席で卒業し、ドイツ留学を経て母校で教べんを執りました。彼の作品は、《たなばたさま》のような童謡から芸術歌曲まで多岐にわたり、仏教讃歌では《いのち》がよく歌われています。

◆演奏のヒント

曲想は、「心静かに」と記されています。お釈迦さまのご入滅から私たちが生きる現代へ、という歌詞の展開にあわせて、１番と２番では少し雰囲気を変えて歌ってみてはいかがでしょうか。

日本的な音の運びが用いられており、メロディーが主音（音階の最初の音）では終わらないので、宙に浮いたような感覚が残ります。その余韻も大切にして、丁寧に歌いましょう。

◆音源について

音源は、CD『ののさまといっしょ　ほとけのこどものうた』に収録されています。

解説執筆：山口篤子（浄土真宗本願寺派総合研究所研究員）

※本解説は、「仏教讃歌」No. 86（保育連盟機関誌『月刊保育資料　まことの保育』第 690 号収録）を加筆・修正のうえ、転載。

Copyright: Jodo Shinshu Hongwanji-ha Research Institute. All Rights Reserved.